

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	ET	13815	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員		

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、教育現場において生じる問題や背景、また、心理社会的課題及び必要な支援を発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方として理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を具体的には、教育現場において生じる問題や背景、また、心理社会的課題及び必要な支援心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバークの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

15回出席を原則とし、1回の欠席で5点減点とする。

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法（中高）		13854	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長		

授業の到達目標

教育課程の意義や編成の方法を学び、カリキュラムマネジメントの重要性を理解する。また、教育課程における総合的な学習の時間の位置づけや意義を理解し、指導計画の作成の仕方を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

学習指導要領が改訂され、教育に求められる課題も変わってきている。「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラムマネジメント」をキーワードに教育課程の果たす役割や機能、意義を理解し、公的な性格を有する学習指導要領を学ぶ。さらに、学習指導要領の歴史的な変遷や諸外国との教育制度の比較から、現在の教育課程の意図を考察する。授業のまとめとして、「総合的な学習（探求）の時間」の単元計画の作成に取り組む。

授業計画

- 1 ☆はじめに・教育課程と総合学習
 - ・「教育課程」とは？・標準授業時数・「学習指導要領」とは？・「学習指導要領」の法的根拠・教育課程は、誰が決めるのか？・「総合的な学習（探求）の時間」の創設
- 2 ☆新学習指導要領のめざすもの
 - ・学習指導要領の改訂・新学習指導要領のめざすもの（改訂にこめられた願い）・新学習指導要領が示す具体的な改定のポイント
- 3 ☆「主体的・対話的で深い学び」とは
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善・「主体的・対話的で深い学び」を促進する教師力・「カリキュラムマネジメント」の視点から
- 4 ☆「主体的・対話的で深い学び」の教育活動の具体を考える①
 - ・宿泊行事について企画する・「教員の連携、複数の教科等の連携」を意識して
- 5 ☆「主体的・対話的で深い学び」の教育活動の具体を考える②
 - ・宿泊行事について企画する・「カリキュラムマネジメント」の視点から
- 6 ☆先進校の実践に学ぶ
- 7 ☆小中一貫教育と教育課程
 - ・学校現場の課題の多様化と複雑化・小中一貫教育の大目的・小中一貫教育の成果
- 8 ☆小中連携・小中高連携
 - ・先進校の実践に学ぶ
- 9 ☆中学校学習指導要領 外国語科の改訂のポイント
 - ・先進校の実践に学ぶ
- 10 ☆総合的な学習（探求）の時間～学習指導要領改訂のポイント～
 - ・「総合的な学習の時間」の経緯

- 11 ☆総合的な学習の時間の目標
 - ・総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメント
- 12 ☆目標を実現するにふさわしい探究課題
 - ・「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」を読む・「総合的な探究の時間」でぶつかる壁・「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」より
- 13 ☆総合的な学習の時間の単元計画を考える
 - ・学校における実践事例・単元計画の具体例・探究的な学習の指導のポイント
- 14 ☆研究開発学校制度・単元計画を考える
 - ・研究開発学校制度について・総合的な学習の時間の単元計画を考える
- 15 ☆まとめテスト

授業の方法

毎回配布するレジュメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視覚教材を活用しながら学習を深める。講義を主とするが、グループワークなども取り入れる。

準備学修

中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）を読んでおく

課題・評価方法、その他

平常点（70%）、定期試験（30%）

欠席について

やむを得ず欠席する場合には、事前、事後に届け出る

テキスト

中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）最新版

参考図書

今、求められる力を高める総合的な学習の時間（小）文部科学省編 教育出版
今、求められる力を高める総合的な学習の時間（中）文部科学省編 教育出版
今、求められる力を高める総合的な学習の時間（高）文部科学省編 教育出版

留意事項

毎回の授業のレジュメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生活文化概論		17405	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士		

授業の到達目標

子どもの生活は、遊びそのものであり、子どもの人格は遊びを通して形成されるものであるとも言える。日本は四季に富み、四季にまつわる様々な子どもを取り巻く記念日・行事がある。この素晴らしい日本の文化を後世に伝えていくことの重要性を理解し、子どもの生活文化の様々な側面を学ぶことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を考える。

授業の概要

現代社会に生きる子どもたちの生活や文化に焦点をあて、そこに生きる子どもたちの諸相を見ていく。体験的学習を織り交ぜ、学生が自らの体験を通して、子ども文化のイメージがもてるようにする。

授業計画

- 1 授業の目的 生活科を踏まえて考える生活文化概論
- 2 子ども文化の意義、定義とその構造
- 3 子どもを取り巻く生活環境の変化
- 4 子どもを取り巻く生活環境について
- 5 現代の子どもたちの遊びと生活
- 6 集団遊びの重要性
異年齢集団の遊びの重要性
- 7 集団遊びの重要性
地域、公共物とのかかわりについて
- 8 自然とのかかわりについて(教室を出ての実験体験)
- 9 自然の中での遊びの重要性
- 10 伝承遊びについて
- 11 児童文化財について
- 12 1年を通して、季節の子ども文化と遊び
- 13 季節の遊びについて(お正月)
- 14 子どもを取り巻く「ひと」「もの」「こと」
- 15 まとめ・定期試験

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要書類については、随時プリントを配布する。

参考図書

子どもとあそび 仙田満著 岩波新書
児童文化 皆川美恵子、武田京子著 ななみ書房
子どもに伝えたい年中行事・記念日 萌文書林

留意事項

実践を多く取り入れるため、授業計画についてはかなり変更があるので、教務課前掲示板を確認しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	PC	17411	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士S V、公立小教員		

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、教育現場において生じる問題や背景、また、心理社会的課題及び必要な支援を発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方として理解する。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を具体的には、教育現場において生じる問題や背景、また、心理社会的課題及び必要な支援心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき5点減点とする

テキスト

必要に応じて指示する。

参考図書

授業で指示する

留意事項

マスクミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論 (中高)			13853	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	阪神淡路大震災学校避難所支援市教委和教育局指導主事公開異人館副館長文科省海外派遣教員			

授業の到達目標

社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応する教育施策の動向を理解する。また、公教育が果たしている社会制度的な意義について考察し、学校教育の基本的な知識を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

公教育の意義、原理、構造について法的な仕組みや基礎的な知識を学ぶ。さらに、こども園・学校と地域との連携の取り組みの中から全ての学校種の在り方や危機管理について考察する。

授業計画

- 1 はじめに、公教育について
- 2 教育行政と公教育の仕組み
- 3 教育改革の歴史概要
- 4 教職教養のまとめ、教育時事
- 5 現代の学校で学ぶもの
- 6 学校経営と教師力
- 7 学校と地域の連携と協働Ⅰ
- 8 学校と地域の連携と協働Ⅱ
- 9 学校力と課外活動(部活動)
- 10 安全教育、安全管理についての取り組み
- 11 学級経営における効果的な指導法
- 12 学校が災害時に果たす組織的な役割
- 13 学校における危機管理のあり方
- 14 開かれた学校づくり、人権感覚の醸成法
- 15 教育経営の基本(保護者対応と姿勢)・まとめ

授業の方法

最初に配布したレジメを中心に授業を進める。レポートを書くこと、グループディスカッション等を多く取り入れる。

準備学修

Webで世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に

調べる。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること。

テキスト

なし

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度、レポートを重視する。授業中に配布したレジメ等の資料を整理しファイリングしておくこと

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職中等		13852	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバークの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

『教育相談ワークブック』桜井美加・齋藤ユリ・森平直子 著 北樹出版

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスクなどでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職小	17497	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員		

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバークの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

『教育相談ワークブック』桜井美加・齋藤ユリ・森平直子 著 北樹出版

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスクミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
地域子育て支援 I		17502	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士		

授業の到達目標

子育て支援とは何か。子育て支援に対する保育者の役割が明確化され、幼稚園や保育所で子育て支援について様々な場や対象に即した支援を行っている。その中で地域の子育て家庭に対する支援について、実践を通し具体的に理解し、積極的に取り組んでいける保育者を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を考え、I（知性）を養う。

授業の概要

子育てを社会全体で支える「子ども・子育て支援新制度」がスタートし、幼稚園、保育所、地域で子育て支援が盛んに行われている状況の中、子育て支援とは何かを考え、保育者を目指している学生が何故子育て支援が必要なのか、親子が求める子育て支援とは何かを考え、親子が育ちあうような子育て支援のあり方を学習する。また、子育て支援の実践を積極的に体験する。

授業計画

- 1 子育て支援とは何か。(DVD視聴「子育て支援とは?」)
- 2 地域子育て支援事業拠点における支援
- 3 地域子育て支援の取り組みへの参加(1)
- 4 地域子育て支援の取り組みへの参加(2)
- 5 地域子育て支援の取り組みへの参加(3)
- 6 地域子育て支援の取り組みへの参加(4)
- 7 地域子育て支援の取り組みへの参加(5)
- 8 振り返りとまとめ。

授業の方法

演習を中心とし、実際体験によって理解を深める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要資料については、随時プリントを配布する。

参考図書

子育ての変貌と次世代育成支援 原田正文著
世界に学ぼう！子育て支援 汐見稔幸著
地域で子育て 渡辺頼一郎編著
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

受講者は子育て支援に関心のあるもの。本学が行う子育て支援事業「海星子育てひろば」に参加し、実践を行い子育て支援の理解を深め、また、保育技術の向上を図る。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については、教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等国語科指導法			17661	Ⅱ/Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
藤田 昌央	選択	2	公立小学校教員、教育委員会指導主事			

授業の到達目標

小学校「国語科」の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、実践する方法を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）、I（知性）の育成を目指す。

授業の概要

国語科の目標と内容、授業方法、授業の構造、指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解したうえで、教科書教材の指導案の作成や模擬授業を通して、国語科の指導力を身に付ける。

授業計画

- 1 受講の心構え・授業規律・授業内容についてのガイダンス、授業の見直しと到達目標の確認
- 2 指導要領と国語科の目標・内容(国語科で付けたい力)
- 3 国語科の学習計画、指導法と評価
- 4 知識及び技能①「言葉の特徴や使い方」
- 5 知識及び技能②「情報の扱い方」|「伝統的な言語文化」
- 6 知識及び技能③「書写」|「読書」
- 7 話すこと・聞くことの内容と指導
- 8 書くことの内容と指導
- 9 音読・朗読の指導
- 10 読むこと(説明的な文章)の指導
- 11 読むこと(文学的な文章)の指導
- 12 模擬授業(選択学年)
- 13 模擬授業(選択学年)
- 14 模擬授業(選択学年)
- 15 国語科におけるICT機器の活用(デジタル教科書及び教材の活用を含む)
- 16

授業の方法

発表やディスカッション、実際の指導を想定した模擬指導、模擬授

業を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①毎時間のふりかえりとレポート（3回）の提出を求め、授業の中でフィードバックを行う。
- ②指導案と模擬授業について、批評とアドバイスをを行う。
- ③評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」東洋館出版
「国語四上かがやき」光村図書

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（模擬授業の準備やレポート等を含む）を重視する。小学校国語科の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育（幼小）			17683	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2				

授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒を理解し、学習上又は生活上の困難を把握し、個別の教育的ニーズに対して、他の教職員・他職種・関係機関と連携しながら組織的に対応していくための支援方法を説明することができる。
この授業では、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、よりよい教育方法や支援のありかたについて理解する。このためには、ライフステージを見通した支援について学習する。また、障害種別ごとに障害特性の正確な理解について学ぶ。これらの基礎的な学習をふまえて、個別の教育ニーズに対応していくための支援方法について、検討していく。

授業計画

- 1 ライフステージを見通した支援について
- 2 障害の理解と支援
発達障害①について
- 3 障害の理解と支援
発達障害②について
- 4 障害の理解と支援
知的障害について
- 5 障害の理解と支援
言語障害について
- 6 障害の理解と支援
肢体不自由について
- 7 障害の理解と支援
聴覚障害について
- 8 障害の理解と支援
視覚障害について
- 9 障害の理解と支援
病弱について
- 10 障害の理解と支援
重症心身障害や医療的ケアについて
- 11 障害児保育の基本について

- 12 発達をめざしたさまざまな連携について
- 13 小学校との接続について
- 14 思春期・青年期にむけて
- 15 これからの障害児保育・教育について
- 16

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

授業後に提出する課題60%
定期試験40%

欠席について

1回の欠席で5点減点とする。

テキスト

特別支援学級はじめての第一歩 坂本裕著

参考図書

適宜紹介する。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職中等		14185	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務			

授業の到達目標

特別活動は、「様々な集団の中で体験を通して人としての生き方を学ぶ」場である。教育課程における位置づけと意義を理解し「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点、他教科との往還的な関連、地域との連携など特別活動の特質を踏まえ教師として指導に必要な基礎的知識を身につける。

このクラスではKAISEIのI（知性）を養う。

授業の概要

特別活動の意義から学校の具体的な実践までを、歴史的な経緯を踏まえながら学修する。

- 1 特別活動の歴史的な経緯を踏まえ意義や目標を理解する。
- 2 特別活動の4つの内容である「学級活動（ホームルーム）」「生徒会活動（児童会活動）」「クラブ活動（部活動）」「学校行事」について理解する。
- 3 特別活動の内容について、実践例などを参考にしながら、具体的に各指導計画をたて指導の在り方について考察する。

授業計画

- 1 講義の進め方と概要を説明(オリエンテーション)
- 2 教育課程における特別活動の位置づけ
- 3 特別活動の歴史の変遷
- 4 ① 各校種における特別活動の内容と目標
② 特別活動の内容1「学級活動」について
- 5 特別活動の内容2「生徒会(児童会)活動」について
- 6 特別活動の内容3「学校行事」について
- 7 学校目標と特別活動の指導計画について
- 8 演習1 学級活動の指導計画を作成する。その1
- 9 演習2 学校行事の特別活動の指導計画を作成する。
- 10 演習3 事前に作成した計画に基づき校外学習を施設を利用して行う。
- 11 演習4 校外学習を終えて
- 12 演習5 学級活動の指導計画を作成する。その2
- 13 クラブ活動と部活動との違い、部活動の教育的意義と課題について
- 14 特別活動と社会とのかかわり
- 15 まとめ

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

- 各授業に関連する内容について「中学校・高等学校学習指導要領 解説 特別活動編」を熟読し予習する。
- 自分の小学校から高校までの特別活動について整理をする。
- 特別活動の実践例など日頃から新聞等を見て整理する。
- Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説『特別活動編』」東山書店
必要に応じて資料を配付する。

参考図書

- ・他の校種の学習指導要領、特に「特別活動」
- ・学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】 東京書籍 国立教育研究所 教育課程研究センター
- ・「社会力を育てる」岩波新書 門脇厚司著
- ・「学校の社会力」朝日新聞 門脇厚司著など

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、現在の社会に目を向け、主体的に考え課題意識をもって捉える姿勢でのぞむこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育（中高）			14187	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士S.V、臨床心理士、上級教育カウンセラー、教育委員会			

授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の実態を理解したうえで、個別の指導計画及び教育支援計画の立案方法を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、より良い教育課程や支援を理解する。発達に課題があるなど障害種にかかわらず、幼児・児童・生徒が「生きる力」を身に付けることができるよう、個別の教育的ニーズを理解し、教員として、また、学校がチームとして求められる支援の方法を考察する。

授業計画

- 1 特別支援教育(インクルーシブ教育含む)の理念や制度
- 2 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の困り感
- 3 発達障害を含む特別な支援が必要な幼児・児童・生徒の心の発達
- 4 障害のある幼児・児童・生徒の困り感
- 5 障害のある幼児・児童・生徒の家族、特に母親の気持ちに寄り添う支援技術
- 6 障害のある幼児・児童・生徒の保護者・兄弟姉妹・祖父母等の障害受容
- 7 合理的配慮の必要性と生活上の困難に対し主体的に取り組む自立活動
- 8 障害のある幼児・児童・生徒の教材選定
- 9 通常学級でのスモールステップ支援と通級指導による指導の時間
- 10 構音障害等通級教室の活用によるチーム支援
- 11 様々な障害種、重複障害と個別的教育支援
- 12 特別支援教育コーディネーター等との連携
- 13 障害種に応じた様々な関係機関等との連携
- 14 障害のある幼児・児童・生徒以外の個別的教育支援
- 15 外国から移住してきた幼児・児童・生徒の学習、生活面での支援
- 16 定期試験

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

定期試験80%、授業最後に提出するレポートと振り返り20%

欠席について

1回の欠席で5点減点とする

テキスト

特別支援学級はじめての第一歩 坂本裕著

参考図書

子どもの発達障害と情緒障害（杉山登志郎、講談社）

留意事項

必要な場合授業時に指示する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（中高）			13809	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長			

授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を理解する。教員の資質能力と職務内容について理解し、身につけることを目標にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

未来を語るキーワードとして「Society5.0・AI・IoT・ICT・SDGs」が語られ、また学習指導要領、生徒指導要領が改訂され、教育を取り巻く今日の課題が、大きく変わってきている。このような状況の中、教育の課題を整理しながら、教員の資質や能力の向上、研修方法について学び、さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の学校教育の在り方や、「教職」の意義、教員の役割を考察していく。

授業計画

- 1 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義(学校制度の変遷・公教育の目的・学校の組織・教職員研修)
- 2 教育を取り巻く今日の課題
- 3 新学習指導要領がめざすもの ～外国語教育～
- 4 新学習指導要領がめざすもの ～道徳教育～
- 5 生徒指導
- 6 いじめ問題・情報モラルセキュリティ
- 7 教員に求められる資質能力
- 8 教員の服務と義務・働き方改革
- 9 人権教育・教員の人権感覚
- 10 特別支援教育・インクルーシブ教育
- 11 安全・防災教育と危機管理について
- 12 特別活動
- 13 キャリア教育と進路指導・総合的な学習(探求)の時間
- 14 校種間連携・地域連携・チーム学校・コミュニティスクール
- 15 「評価」について・まとめテスト(小論文)

授業の方法

毎回配布するレジメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義を主とするが、グループワークなども取り入れる。

準備学修

指示されたテキストを事前に読んで理解したり、義務教育関連の情報積極的に収集したりすること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

テキスト

「小学校学習指導要領（平成29年告示）」（文部科学省）

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

毎回の授業のレジメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（キッズ）			13809	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長			

授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を理解する。教員の資質能力と職務内容について理解し、身につけることを目標にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

未来を語るキーワードとして「Society5.0・AI・IoT・ICT・SDGs」が語られ、また学習指導要領、生徒指導要領が改訂され、教育を取り巻く今日の課題が、大きく変わってきている。このような状況の中、教育の課題を整理しながら、教員の資質や能力の向上、研修方法について学び、さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の学校教育の在り方や、「教職」の意義、教員の役割を考察していく。

授業計画

- 1 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義(学校制度の変遷・公教育の目的・学校の組織・教職員研修)
- 2 教育を取り巻く今日の課題
- 3 新学習指導要領がめざすもの ～外国語教育～
- 4 新学習指導要領がめざすもの ～道徳教育～
- 5 生徒指導
- 6 いじめ問題・情報モラルセキュリティ
- 7 教員に求められる資質能力
- 8 教員の服務と義務・働き方改革
- 9 人権教育・教員の人権感覚
- 10 特別支援教育・インクルーシブ教育
- 11 安全・防災教育と危機管理について
- 12 特別活動
- 13 キャリア教育と進路指導・総合的な学習(探求)の時間
- 14 校種間連携・地域連携・チーム学校・コミュニティスクール
- 15 「評価」について・まとめテスト(小論文)

授業の方法

毎回配布するレジメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義を主とするが、グループワークなども取り入れる。

準備学修

指示されたテキストを事前に読んで理解したり、義務教育関連の情報積極的に収集したりすること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

テキスト

「小学校学習指導要領（平成29年告示）」（文部科学省）

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

毎回の授業のレジメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育原理			17607	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨佳	選択	2				

授業の到達目標

保育と保育者のあり方について基本的な理解を深め、保育の思想や歴史、制度、内容や方法などについて基礎的な用語を学ぶ。また、今日の保育を取り巻く状況や社会環境、保育所のみならず家庭や地域社会での子育ての問題などにふれ、国内外における子育ての現状と課題を把握し保育の問題をとらえる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

幼稚園や保育所では様々な保育が行われ、多様な保育の考え方が存在する。そこで、子どもを取り巻く近年の社会状況や環境等に視野を広げながら様々な保育課題を考察すると共に、保育の基本的事項（基本原則、保育における養護、目標、内容、環境構成等）や保育の歴史の変遷を踏まえた保育の実践について学びを深める。さらに、幼稚園・保育所と地域との連携（子育て支援活動の実践等）に関する理解及び幼稚園・保育所の安全への対応に関する基本的知識を身に付ける。

授業計画

- 1 オリエンテーション: 保育の意義と本質
- 2 保育制度の枠組みとその課題
- 3 保育所の社会的機能と役割
- 4 保育の理念と目的
- 5 保育の目標と方法
- 6 保育者の専門性と資質向上
- 7 日本における保育の思想と歴史
- 8 諸外国の保育の思想と歴史
- 9 保育のねらいと内容
- 10 保育の計画と評価
- 11 子どもの健康と安全
- 12 子どもの発達と保育内容(多様な子どもの理解と保育)
- 13 学校や地域、関係機関との連携と保育
- 14 保育における保護者との連携と子育て支援
- 15 保育の近年の動向と今後の課題・展望

授業の方法

講義を中心とするが、適宜グループワークやディスカッションを取

り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%で評価する。

欠席について

学内規定に準ずる。

テキスト

「シリーズ知のゆりかご つながる保育原理」株式会社みらい

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説書」
内閣府・文部科学省・構成労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論 (小)			17613	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長			

授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を理解する。教員の資質能力と職務内容について理解し、身に付けることを目標にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

未来を語るキーワードとして「Society5.0・AI・IoT・ICT・SDGs」が語られ、また学習指導要領、生徒指導要領が改訂され、教育を取り巻く今日の課題が、大きく変わってきている。このような状況の中、教育の課題を整理しながら、教員の資質や能力の向上、研修方法について学び、さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の学校教育の在り方や、「教職」の意義、教員の役割を考察していく。

授業計画

- 1 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義(学校制度の変遷・公教育の目的・学校の組織・教職員研修)
- 2 教育を取り巻く今日的課題
- 3 新学習指導要領がめざすもの ～外国語教育～
- 4 新学習指導要領がめざすもの ～道徳教育～
- 5 生徒指導
- 6 いじめ問題・情報モラルセキュリティ
- 7 教員に求められる資質能力
- 8 教員の服務と義務・働き方改革
- 9 人権教育・教員の人権感覚
- 10 特別支援教育・インクルーシブ教育
- 11 安全・防災教育と危機管理について
- 12 特別活動
- 13 キャリア教育と進路指導・総合的な学習(探求)の時間
- 14 校種間連携・地域連携・チーム学校・コミュニティスクール
- 15 「評価」について・まとめテスト(小論文)

授業の方法

毎回配布するレジメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義を主とするが、グループワークなども取り入れる。

準備学修

指示されたテキストを事前に読んで理解したり、義務教育関連の情報積極的に収集したりすること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

テキスト

「小学校学習指導要領（平成29年告示）」（文部科学省）

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

毎回の授業のレジメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論 (中等)	教職中等	13829	Ⅱ/Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長		

授業の到達目標

道徳教育の基本的な概念を学習し、道徳的な実践力を養う。さらに学校での道徳教育の指導法を考察し、道徳教育指導案の作成と授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティーI（知性）を養う。

授業の概要

道徳の意義や原理を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。また、多様な道徳教育の指導法を学修し、実際の教科書を使用して指導案検討を行う。

授業計画

- 1 道徳教育の目標・特別の教科 道徳
- 2 道徳の歴史
- 3 道徳の指導案を考える・内容項目について
- 4 道徳教育と国際理解教育
- 5 諸外国の道徳教育の状況・指導案演習
- 6 道徳科の指導・指導案演習
- 7 子ども達をつなぐ授業手法・指導案演習
- 8 モラルジレンマ・指導案演習
- 9 いじめ問題を考える①・指導案演習
- 10 いじめ問題を考える②・模擬授業
- 11 いじめ問題を考える③・指導案演習
- 12 いじめ問題を考える④・情報モラル・指導案演習
- 13 安全防災教育・指導案演習
- 14 防災教育・指導案演習
- 15 まとめテスト(指導案作成)

授業の方法

毎回配布するレジメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義とグループワークでの演習なども取り入れる。

準備学修

過去に学校で学習した道徳の時間や道徳的な行事を思い返しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届けること

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）」最新版

参考図書

神戸市立小学校採用の道徳の教科書「きみがいちばんひかるとき」1～6年用（光村図書）
神戸市立中学校採用の道徳の教科書「中学道徳 あすを生きる」1～3年用（日本文教出版）

留意事項

授業中に配布した資料をもとに、毎回レポートを作成します

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育科指導法			17745	Ⅱ/Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 正実	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

体育科の学習指導案を作成し、体育科の模擬授業を行う力を養う。併せて、授業観察力を培う。グループワークを主として行い、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、S（奉仕）の育成を目指す。

授業の概要

小学校体育科の目標、指導計画、学習指導法、教材内容の扱い方を把握する。理解した知識を基に学習指導計画を立て、模擬授業を実施する。また、授業を観察するポイントを理解する。

授業計画

- 1 オリエンテーション。「先生を目指す」ということ。目指す体育授業①
- 2 体育実技を通して「小学校学習指導要領、体育編の内容」に触れる。目指す体育授業②
- 3 小学校学習指導要領・体育編の内容を知る。目指す体育授業③。
- 4 運動の特性について 目指す体育授業④
- 5 学習評価について 目指す体育授業⑤
- 6 授業参観から指導案作りを学ぶ 目指す体育授業⑥
- 7 学習指導案の書き方について
- 8 指導案を作成する。〈外1〉
- 9 指導案を作成する。〈外2〉
- 10 指導案を作成する。〈外3〉
- 11 模擬授業を実施する。〈外1〉
- 12 模擬授業を実施する。〈外2〉
- 13 模擬授業を実施する。〈外3〉
- 14 模擬授業を振り返る。体育授業における教師のマネジメント
- 15 学習のまとめ。これからの体育学習について

授業の方法

少人数グループでの話し合い、調べ学習、作業等を主とする。模擬授業に伴う体育の実技も実施予定である。

準備学修

文部科学省 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育

編」、令和2年度版「神戸市小学校体育指導の手引き」等を読み、学習指導計画案等を事前に調べ、予習・復習等60時間を費やすこと。

課題・評価方法、その他

- ①学習指導計画案と模擬授業、体育授業のマネジメント等について、評価とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点45点、学習指導計画案30点、模擬授業25点とする。

欠席について

原則欠席をしない事。登校できる程度なら実技・模擬授業見学でも出席すること。

テキスト

使用しない。

参考図書

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」令和2年度版「神戸市小学校体育指導の手引き」

留意事項

実技も実施するので、運動のできる服装の用意をする。学外にて、体育授業の参観を行う予定である。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論	教職小		17749	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長			

授業の到達目標

道徳教育の基本的な概念を学習し、道徳的な実践力を養う。さらに学校での道徳教育の指導法を考察し、道徳教育指導案の作成と授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティI（知性）を養う。

授業の概要

道徳の意義や原理を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。また、多様な道徳教育の指導法を学修し、実際の教科書を使用して指導案検討を行う。

授業計画

- 1 道徳教育の目標・特別の教科 道徳
- 2 道徳の歴史
- 3 道徳の指導案を考える・内容項目について
- 4 道徳教育と国際理解教育
- 5 諸外国の道徳教育の状況・指導案演習
- 6 道徳科の指導・指導案演習
- 7 子ども達をつなぐ授業手法・指導案演習
- 8 モラルジレンマ・指導案演習
- 9 いじめ問題を考える①・指導案演習
- 10 いじめ問題を考える②・模擬授業
- 11 いじめ問題を考える③・指導案演習
- 12 いじめ問題を考える④・情報モラル・指導案演習
- 13 安全防災教育・指導案演習
- 14 防災教育・指導案演習
- 15 まとめテスト(指導案作成)

授業の方法

毎回配布するレジュメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義とグループワークでの演習なども取り入れる。

準備学修

過去に学校で学習した道徳の時間や道徳的な行事を思い返しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届けること

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）」最新版

参考図書

神戸市立小学校採用の道徳の教科書「きみがいちばんひかるとき」1～6年用（光村図書）
神戸市立中学校採用の道徳の教科書「中学道徳 あすを生きる」1～3年用（日本文教出版）

留意事項

授業中に配布した資料をもとに、毎回レポートを作成します

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論（進路指導を含む）	教職小	17753	Ⅱ/Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
松井 敦	選択	2	中学校教諭 中学教頭 小学校校長		

授業の到達目標

生徒指導の理論と方法、教育相談、進路指導について学ぶ。この講座ではKAISEIパーソナリティのA（自律）でコミュニケーション能力を養い、事例研究の実践でK（思いやり：傾聴力）とI（知性）状況把握力を高める訓練をする。

授業の概要

教科書（文部科学省「生徒指導提要」）を参考資料として授業を進める。生徒指導の方法や生徒理解について考察し、実際の取り組み方を学んでいく。さらに、教育相談の手法を学び、進路指導、キャリア教育も生徒指導の視点から考察する。

授業計画

- 1 生徒指導の意義と目的・「生徒指導提要」の改訂
- 2 教職員の人権感覚・組織対応
- 3 教育の現場の実践から学ぶ
- 4 多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導①
- 5 多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導②
- 6 セクシャルマイノリティの理解
- 7 性に関する課題
- 8 いじめ問題・情報モラル
- 9 インターネット・携帯電話に関わる問題
- 10 少年非行①
- 11 少年非行②
- 12 自殺
- 13 安全防災教育・危機管理
- 14 進路指導とキャリア教育
- 15 まとめテスト

授業の方法

授業は「生徒指導提要（令和4年12月）」にそって、毎回配布するレジュメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義を主とするが、グループワークなども取り入れる。

準備学修

テキスト「生徒指導提要（令和4年12月）」（文部科学省）を読むしておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること。

テキスト

文部科学省編「生徒指導提要（令和4年12月）」

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

毎回の授業のレジュメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護Ⅱ		17640	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
曾田 里美	選択	1	児童養護施設職員		

授業の到達目標

現代の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い家庭での養育機能は脆弱化している。家庭養育だけでは子どもの養育は困難な状況となり、国や社会で子どもたちを養育・保護する「社会的養護」が重要となる。地域社会をも含めた施設養護および家庭養護の本質と機能を理解し、援助技術について実践的活動事例を通して学びを深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのS（奉仕）を養う。

授業の概要

家庭のもとを離れて施設や里親家庭で生活する社会的養護の子どもたちの背景や実情を理解するとともに、子どもたちが置かれている状況について想像力を働かせ、必要な関わりや支援につなげていくことを目指す。児童養護施設、児童虐待、里親、生い立ちの整理、子どもの貧困など社会的養護に関連する新聞記事や事例、映像などを通して、子どもやその家族の実態や問題の背景について理解を深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション 社会的養護Ⅱを学ぶにあたって
- 2 施設における生活と支援
- 3 児童養護施設の事例
- 4 「こうのとりのゆりかご」を通して考える社会的養護①
- 5 「こうのとりのゆりかご」を通して考える社会的養護②
- 6 乳児院の事例
- 7 里親家庭の事例
- 8 まとめ
- 9
- 10

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。双方向の授業のため積極的な参加を求める。

準備学修

日ごろから新聞、ニュース等で子どもを取り巻く問題に関心を深め

ておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

公欠以外の欠席は原則認めない。欠席は成績評価において減点する。

テキスト

必要に応じて資料を配布する。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職実践演習 (中・高)	ET	14214	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
宮副 紀子/松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長		

授業の到達目標

中学校又は高等学校の教師を目指す学生が、教職課程科目で学修した教科指導や生徒指導等の内容について実践することを通して、それらの知識及び技能を修得したことを確認する。このクラスでは KAISEI パーソナリティの A(自律)、I(知性)、及び E(倫理)を養う。

授業の概要

中学校及び高等学校の教師として必要な知識や技能である (1) 使命感・責任感・資質に関する知識、(2) 社会性や対人関係能力、(3) 教科の指導力について、十分に修得できているかどうかをグループ討論、ロールプレイング、模擬授業などの演習で、実際の教育現場での実践を想定しながら、確認していく。

授業計画

- ☆今、教育界を取り巻く社会の動きは？
・学習指導要領の改訂・生徒指導要領の改訂・人権三法・合理的配慮・インクルーシブ教育・これからの未来を語るキーワード
- ☆教師の人権感覚
・チェックシートから教師の人権感覚を考える
- ☆年度当初の「学年会議」を想定した実践演習
・「黄金の三日間」が勝負！
- ☆年度当初の「学年会議」「教科会議」を想定した実践演習
・中学1年生学級担任の所信表明・学年目標(指導方針)・三日間計6時間の学級活動の計画
- ☆外国語教育はこう変わっている①
・中学校学習指導要領 外国語科の改訂のポイント・先進校の実践に学ぶ
- ☆外国語教育はこう変わっている②
・先進校の実践に学ぶ・教育実習での授業を振り返る
- ☆主体的・対話的で深い学び①
・新学習指導要領が示す具体的な改定のポイント・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて
- ☆主体的・対話的で深い学び②
・宿泊行事の企画会議を想定した実践演習
- ☆Integrated English①
・教科の指導力についての講義
- ☆Integrated English②
・教科の指導力についての講義と討論

- ☆「通知表の所見」を想定した「評価活動」の実践演習
・視聴覚資料を見て児童生徒の「行動の評価」を考える・通知表所見の表現の工夫
- ☆生徒指導の実践演習
・生徒指導の場面を想定してのケース検討と実践演習
- ☆「総合的な学習(探求)の時間」の実践演習②
・「総合的な学習(探求)の時間」の単元計画を考える
- ☆「道徳の時間」の読み物教材を検討する実践演習
- 資質能力の確認・まとめ ～講評

授業の方法

講義とグループワークを中心に授業を行う。グループワークでは、学年会議・教科会議を想定した実践演習や、総合的な学習の時間の単元計画などの作成、また生徒指導でのケース検討やロールプレイングなどを行い、実際の教育現場での実践を想定した演習を行う。

準備学修

これまでの教職関係の授業資料を準備し、復習しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

適宜、授業資料を配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

教職に対する情熱をもって授業に参加・貢献する誠実な態度が必要である。授業で配布するレジメや資料を、整理してファイルすること。授業の後半で提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論	教職中等	14217	II/III	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学教頭小学校校長		

授業の到達目標

生徒指導の理論と方法、教育相談、進路指導について学ぶ。この講座ではKAISEIパーソナリティのA(自律)でコミュニケーション能力を養い、事例研究の実践でK(思いやり:傾聴力)とI(知性)状況把握力を高める訓練をする。

授業の概要

教科書(文部科学省「生徒指導提要」)を参考資料として授業を進める。生徒指導の方法や生徒理解について考察し、実際の取り組み方を学んでいく。さらに、教育相談の手法を学び、進路指導、キャリア教育も生徒指導の視点から考察する。

授業計画

- 生徒指導の意義と目的・「生徒指導提要」の改訂
- 教職員の人権感覚・組織対応
- 教育の現場の実践から学ぶ
- 多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導①
- 多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導②
- セクシャルマイノリティの理解
- 性に関する課題
- いじめ問題・情報モラル
- インターネット・携帯電話に関わる問題
- 少年非行①
- 少年非行②
- 自殺
- 安全防災教育・危機管理
- 進路指導とキャリア教育
- まとめテスト

授業の方法

授業は「生徒指導提要(令和4年12月)」にそって、毎回配布するレジメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義を主とするが、グループワークなども取り入れる。

準備学修

テキスト「生徒指導提要(令和4年12月)」(文部科学省)を読むこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること。

テキスト

文部科学省編「生徒指導提要(令和4年12月)」

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

毎回の授業のレジメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理	教職小	17521	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務		

授業の到達目標

- 1 教育の理念と目的について理解する。
 - 2 教育に関する歴史及び思想について理解する。
 - 3 日本と諸外国の学校制度について理解する。
 - 4 現代社会における教育の現状と課題について理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育学上の重要な理念について理解した上で、教育思想及び学校制度の歴史の変遷について理解を深める。このことを踏まえ現在の社会における教育課題や学校教育の在り方について考察する。

授業計画

- 1 講義の進め方と講義概要について説明する。
- 2 人とは？教育とは？
- 3 学校の歴史 その1 諸外国の教育の思想と歴史
- 4 学校の歴史 その2 日本における学校制度の成立と展開
- 5 教育に関する法規
- 6 現行法における日本の学校教育の目的
- 7 教育課程と教育内容
- 8 学習指導要領の変遷
- 9 教師の仕事と専門性
- 10 よい授業とは
- 11 現代社会と教育問題－いじめ・不登校問題など
- 12 教育改革の新しい動きと方向について
- 13 日本と諸外国の教育制度
- 14 生涯学習の意義と生涯学習の機会
- 15 まとめとテスト

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

本講義は、「教育とは何か」「学校制度」などを歴史的な視点や諸外国との比較で研究し考察する。教育に関しての思想家や法規など耳慣れない事項がでてくるため、関連する事柄について予習と復習

を必ず行うこと。Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準ずる。

テキスト

- ・「問いからはじめる教育学」【改訂版】 勝野 正章・庄井 良信著 出版社：有斐閣
- ・取得を希望する校種の学習指導要領総解説
その他 必要に応じて資料を配付

参考図書

- ・「はじめての子どもの教育原理」 福元真由美著 出版社：有斐閣
- ・「やさしい教育原理」 田嶋 一他著 出版社：有斐閣
- ・「教育の原理を学ぶ」 遠藤 克弥・山崎 真之著 出版者：川島書店

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、自ら問題意識を持って主体的に研究し学ぶこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子ども家庭福祉		17523	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
久松 睦典	選択	2	公立中学校スクールカウンセラー		

授業の到達目標

現代を生きる子ども達の状況は、厳しい社会状況を反映し、大きく変化しつつある。社会の歪から子どもの発達を守り、健やかな成長を促すためには、社会、学校、家庭の三者教育のバランスのとれた教育と、それを積極的にバックアップする行政の取り組みの必要性が求められている。そうした状況下では、子育て支援や健全育成のためのより高度な専門的な知識を要求する「児童家庭福祉」の指導者としての資質が一層問われることになる。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）をベースにしてコミュニケーション能力を養う。

授業の概要

最近の児童を取り巻く社会環境も変容し、価値観も大幅に多様化するとともに、様々な問題群も続出してきた。児童が社会構成の一員として、大人社会にあっても常に暖かく迎えられるよう児童家庭の問題と児童福祉に対する正しい概念を身につけなければならない。どのようにして地域社会の保障と支援が行えるか、児童福祉の今日的課題を考察し、その実態とその基本的な知識の習得、目的と方策を学ぶ。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 子ども家庭福祉とは
- 3 子ども家庭福祉のあゆみ
- 4 子どもと家庭の支援活動指針としての子どもの権利条約
- 5 子どもと家庭を支援する法律の体系
- 6 子どもと家庭を支援する制度の体系
- 7 子どもと家庭を支援する施設の体系
- 8 子どもと家庭を支援する専門職
- 9 子どもと家庭を支援する活動方法
- 10 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－虐待について
- 11 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－親子関係
- 12 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－非行
- 13 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－保育
- 14 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－一人親家庭
- 15 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－貧困

授業の方法

講義のテーマや単元に応じて作業課題を実施する。テーマについて、グループ討議し、発表する。またミニテストも実施する。

準備学修

できるだけ日常の新聞報道などで児童福祉に関する記事に目を通す。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点減点し、欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト

吉田眞理編『児童の福祉を支える子ども家庭福祉』萌文書林

参考図書

適時紹介する。

オフィスアワー

講義の前後

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理	教職中等		14115	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務			

授業の到達目標

- 1 教育の理念と目的について理解する。
 - 2 教育に関する歴史及び思想について理解する。
 - 3 日本と諸外国の学校制度について理解する。
 - 4 現代社会における教育の現状と課題について理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育学上の重要な理念について理解した上で、教育思想及び学校制度の歴史の変遷について理解を深める。このことを踏まえ現在の社会における教育課題や学校教育の在り方について考察する。

授業計画

- 1 講義の進め方と講義概要について説明する。
- 2 人とは？教育とは？
- 3 学校の歴史 その1 諸外国の教育の思想と歴史
- 4 学校の歴史 その2 日本における学校制度の成立と展開
- 5 教育に関する法規
- 6 現行法における日本の学校教育の目的
- 7 教育課程と教育内容
- 8 学習指導要領の変遷
- 9 教師の仕事と専門性
- 10 よい授業とは
- 11 現代社会と教育問題－いじめ・不登校問題など
- 12 教育改革の新しい動きと方向について
- 13 日本と諸外国の教育制度
- 14 生涯学習の意義と生涯学習の機会
- 15 まとめとテスト

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

本講義は、「教育とは何か」「学校制度」などを歴史的な視点や諸外国との比較で研究し考察する。教育に関しての思想家や法規など耳慣れない事項がでてくるため、関連する事柄について予習と復習

を必ず行うこと。Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準ずる。

テキスト

- ・「問いからはじめる教育学」【改訂版】 勝野 正章・庄井 良 信著 出版社：有斐閣
- ・取得を希望する校種の学習指導要領総則解説
その他 必要に応じて資料を配付

参考図書

- ・「はじめての子どもの教育原理」 福元真由美著 出版社：有斐閣
- ・「やさしい教育原理」 田嶋 一他著 出版社：有斐閣
- ・「教育の原理を学ぶ」 遠藤 克弥・山崎 真之著 出版社：川島書店

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、自ら問題意識を持って主体的に研究し学ぶこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験(事前指導)	教職中等		14147	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	1				

授業の到達目標

「介護等体験」の意義を理解する。社会福祉施設や特別支援学校について、基本的な知識を身に付ける。「介護等体験」でかかわる人々の状況を理解する。「介護等体験」にあたっての心構えや留意点を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、S（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

いわゆる「介護等体験特例法」は、「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる」としている。授業では、この法律の趣旨を理解できるように指導する。社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）において「介護等体験」を円滑に行い十分な成果を得るため、基本的な知識と技能を身に付けられるようにする。

授業計画

- 1 「介護等体験」の目的と概要
- 2 社会福祉施設 1
- 3 社会福祉施設 2
- 4 介護の心構えと実際
- 5 高齢者の心と身体
- 6 特別支援学校
- 7 障がいのある子どものかかわり方と「介護等体験」
- 8 「介護等体験」に臨む心構え・留意事項

授業の方法

講義とDVD視聴に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

- 『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会
全国特別支援学校長会『介護等体験ガイドブック 新フィリア』ジ
アース教育新社

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

この授業は7.5回行う。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職中等	14185	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務		

授業の到達目標

特別活動は、「様々な集団の中で体験を通して人としての生き方を学ぶ」場である。教育課程における位置づけと意義を理解し「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点、他教科との往還的な関連、地域との連携など特別活動の特質を踏まえ教師として指導に必要な基礎的知識を身につける。

このクラスではKAISEIのI（知性）を養う。

授業の概要

特別活動の意義から学校の具体的な実践までを、歴史的な経緯を踏まえながら学修する。

- 1 特別活動の歴史的な経緯を踏まえ意義や目標を理解する。
- 2 特別活動の4つの内容である「学級活動（ホームルーム）」「生徒会活動（児童会活動）」「クラブ活動（部活動）」「学校行事」について理解する。
- 3 特別活動の内容について、実践例などを参考にしながら、具体的に各指導計画をたて指導の在り方について考察する。

授業計画

- 1 講義の進め方と概要を説明(オリエンテーション)
- 2 教育課程における特別活動の位置づけ
- 3 特別活動の歴史の変遷
- 4 ① 各校種における特別活動の内容と目標
② 特別活動の内容1「学級活動」について
- 5 特別活動の内容2「生徒会(児童会)活動」について
- 6 特別活動の内容3「学校行事」について
- 7 学校目標と特別活動の指導計画について
- 8 演習1 学級活動の指導計画を作成する。その1
- 9 演習2 学校行事の特別活動の指導計画を作成する。
- 10 演習3 事前に作成した計画に基づき校外学習を施設を利用して行う。
- 11 演習4 校外学習を終えて
- 12 演習5 学級活動の指導計画を作成する。その2
- 13 クラブ活動と部活動との違い、部活動の教育的意義と課題について
- 14 特別活動と社会とのかかわり
- 15 まとめ

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

- 各授業に関連する内容について「中学校・高等学校学習指導要領 解説 特別活動編」を熟読し予習する。
- 自分の小学校から高校までの特別活動について整理をする。
- 特別活動の実践例など日頃から新聞等を見て整理する。
- Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説『特別活動編』」東山書店
必要に応じて資料を配付する。

参考図書

- ・他の校種の学習指導要領、特に「特別活動」
- ・学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】 東京書籍 国立教育研究所 教育課程研究センター
- ・「社会力を育てる」岩波新書 門脇厚司著
- ・「学校の社会力」朝日新聞 門脇厚司著など

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、現在の社会に目を向け、主体的に考え課題意識をもって捉える姿勢でのぞむこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育（中高）		14187	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士S.V、臨床心理士、上級教育カウンセラー、教育委員会		

授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の実態を理解したうえで、個別の指導計画及び教育支援計画の立案方法を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、より良い教育課程や支援を理解する。発達に課題があるなど障害種にかかわらず、幼児・児童・生徒が「生きる力」を身に付けることができるよう、個別の教育的ニーズを理解し、教員として、また、学校がチームとして求められる支援の方法を考察する。

授業計画

- 1 特別支援教育(インクルーシブ教育含む)の理念や制度
- 2 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の困り感
- 3 発達障害を含む特別な支援が必要な幼児・児童・生徒の心の発達
- 4 障害のある幼児・児童・生徒の困り感
- 5 障害のある幼児・児童・生徒の家族、特に母親の気持ちに寄り添う支援技術
- 6 障害のある幼児・児童・生徒の保護者・兄弟姉妹・祖父母等の障害受容
- 7 合理的配慮の必要性と生活上の困難に対し主体的に取り組む自立活動
- 8 障害のある幼児・児童・生徒の教材選定
- 9 通常学級でのスモールステップ支援と通級指導による指導の時間
- 10 構音障害等通級教室の活用によるチーム支援
- 11 様々な障害種、重複障害と個別的教育支援
- 12 特別支援教育コーディネーター等との連携
- 13 障害種に応じた様々な関係機関等との連携
- 14 障害のある幼児・児童・生徒以外の個別的教育支援
- 15 外国から移住してきた幼児・児童・生徒の学習、生活面での支援
- 16 定期試験

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

定期試験80%、授業最後に提出するレポートと振り返り20%

欠席について

1回の欠席で5点減点とする

テキスト

特別支援学級はじめての第一歩 坂本裕著

参考図書

子どもの発達障害と情緒障害（杉山登志郎、講談社）

留意事項

必要な場合授業時に指示する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光フランス語			13837	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	2	私立・県立高等学校教員（フランス語）			

授業の到達目標

〈観光客としてフランスを旅行する〉またく日本を訪れたフランス語話者とコミュニケーションをとる〉ために最低限必要な知識と会話を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

フランス（首都、地方）、衣食住を含むフランス人の日常生活、社会の動向、文化などフランス諸事情全般について、関連項目の映像資料を参考にしながらテキストを講読する。またフランスの国、地方、歴史、観光地、食文化、スポーツ等、学生の積極的な発表を軸に授業を進める。

授業計画

- 1 Orientation, "La France"
- 2 "La France" "Pairs"
- 3 "Paris"
- 4 "Les cafés"
- 5 "La vie des étudiants"
- 6 "Le pain, le vin et le fromage"
- 7 "La Bretagne"
- 8 "La Bretagne"
- 9 "La Provence"
- 10 "La Provence"
- 11 "L'Alsace"
- 12 "L'Alsace", 映画鑑賞(フランス語)
- 13 "Trois grands personnages de l'histoire française"
- 14 "Le français dans le monde"
- 15 まとめと試験

授業の方法

多彩なテーマについて書かれた関連資料の講読と学生の発表（テーマについて観察、調査、考察をしたもの）による。

準備学修

web参照のこと

課題・評価方法、その他

出席点10%、平常点20%、研究発表30%、学期末試験40%

欠席について

授業出席は必要不可欠、やむを得ない場合、授業で進んだところまでの内容について自らの補習が必要である。

テキスト

Amicalement plus（2023 刷発行 駿河台出版社）
テキスト講読に関しては予め単語帳及び解説プリントを準備する。

参考図書

必要があれば授業で紹介する。その他、観光案内資料や学生の興味の対象となる資料記事を配信する予定。

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童英語教育概論			13701	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コースにて10年以上の指導経験あり。			

授業の到達目標

小学校外国語活動・外国語科の学習指導の知識、第2言語習得の基礎的な知識、授業に必要な英語コミュニケーション能力、教材や評価の基礎知識を、小・中・高等学校の連携も視野に入れて身に付ける。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

学習指導要領における「3つの資質・能力」を踏まえた「5つの領域」及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法、小学校の外国語教育に必要な基礎的な知識を、以下の「授業計画」の具体的な項目に従って身に付ける。毎回「10分間 Classroom English」を行う。

授業計画

- 1 小学校英語教育の目的(1)小学校学習指導要領の理解
- 2 小学校英語教育の目的(2)世界の言語政策事情
- 3 小学校英語教育の目的(3)異文化理解
- 4 小学校英語教育の目的(4)児童文学
- 5 第2言語習得研究(1)年齢と言語習得
- 6 第2言語習得研究(2)学習と環境
- 7 第2言語習得研究(3)学習者要因、指導者要因
- 8 第2言語習得研究(4)児童期の第2言語習得における語彙習得
- 9 第2言語習得研究(5)児童期の第2言語習得における文法習得
- 10 第2言語習得研究(6)児童期の第2言語習得における音声習得
- 11 技能の育成(1)リスニング
- 12 技能の育成(2)スピーキング
- 13 技能の育成(3)リーディング
- 14 技能の育成(4)ライティング
- 15 まとめ、小学校英語指導に求められる資質と能力

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、プレゼンテーション50%、レポート20%

欠席について

3分の2以上の出席が必要。

テキスト

テキストは授業内で購入すること。
適宜プリントを配布する。

参考図書

【参考文献】
『小学校英語はじめる教科書 改訂版』吉田研作（監修）小川隆夫、東仁美（著） mpi松香フォニックス 2021
『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもと表現（造形）			17510	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	1	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

(1) 乳幼児の表現の発達過程を理解できるように、表出から表現に至る乳幼児の心身の発達を説明できることや、表現を豊かにする題材、事物との出会いの重要性を説明できるようになること、
(2) 保育における身体・音楽・造形等の多様な表現に関する知識・技能を身に付けるように、イメージを豊かに育み、情緒を安定させ自分らしい表現ができることや、多様な表現を組み合わせたり、鑑賞したりして豊かな感性を育むことの説明ができるようになることを目指す。また協同活動により豊かな表現につなげていくことの大切さがわかることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

豊かな感性や表現する力を養う領域「表現」の指導の基盤となる、幼児期の表現やその発達、創造性や感性を育む環境構成等の知識・技能・表現力を身に付ける。

授業計画

- 1 領域「表現」のねらいと内容、造形表現の理解
- 2 乳幼児の表出から表現へかく・つくるに着目した発達の特徴と過程
- 3 身近な自然を体感し、身体感覚を通して表現する
- 4 素材の特性を知り、発達に即して具体的な表現にいかす
- 5 イメージを豊かにする題材、事物との出会いと環境構成
- 6 鑑賞活動と豊かな感性（情報機器及び教材の活用を含む）
- 7 仲間と創る総合的な表現活動の楽しさ—絵本や物語をいかしたパフォーマンス・アーツへ—
- 8 乳幼児の素朴な表現の分析・評価、定期試験
- 9

授業の方法

講義に加え、実技や鑑賞活動を取り入れる。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

①課題レポートや作品の提出を求め、授業内にフィードバックを行う。
②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点の減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』、厚生労働省『保育所保育指針解説 平成30年3月』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月』株式会社フレーベル館

参考図書

樋口一成『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』2018年（株）萌文書林、その他適宜配布する

留意事項

日頃から作ったり描いたりすることを生活に取り入れたり、様々な自然・人工素材に親しんだりしておく

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等英語			17511	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コースにて10年以上の指導経験あり。			

授業の到達目標

小学校外国語活動・外国語科の学習指導の知識、第2言語習得の基礎的な知識、授業に必要な英語コミュニケーション能力、教材や評価の基礎知識を、小・中・高等学校の連携も視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

学習指導要領における「3つの資質・能力」を踏まえた「5つの領域」及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法、小学校の外国語教育に必要な基礎的な知識を、以下の「授業計画」の具体的な項目に従って身に付ける。毎回「10分間 Classroom English」を行う。

授業計画

- 1 小学校英語教育の目的(1)小学校学習指導要領の理解
- 2 小学校英語教育の目的(2)世界の言語政策事情
- 3 小学校英語教育の目的(3)異文化理解
- 4 小学校英語教育の目的(4)児童文学
- 5 第2言語習得研究(1)年齢と言語習得
- 6 第2言語習得研究(2)学習と環境
- 7 第2言語習得研究(3)学習者要因、指導者要因
- 8 第2言語習得研究(4)児童期の第2言語習得における語彙習得
- 9 第2言語習得研究(5)児童期の第2言語習得における文法習得
- 10 第2言語習得研究(6)児童期の第2言語習得における音声習得
- 11 技能の育成(1)リスニング
- 12 技能の育成(2)スピーキング
- 13 技能の育成(3)リーディング
- 14 技能の育成(4)ライティング
- 15 まとめ、小学校英語指導に求められる資質と能力

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、プレゼンテーション50%、レポート20%

欠席について

3分の2以上の出席が必要。

テキスト

テキストは授業内で購入すること。
適宜プリントを配布する。

参考図書

『小学校英語はじめる教科書 改訂版』吉田研作（監修）小川隆夫、東仁美（著）mpi松香フォニックス 2021
『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年
その他、必要に応じて、随時紹介する。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュ I	ET		13725	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コースにて10年以上の指導経験あり。			

授業の到達目標

小学校外国語教育における背景知識や教材、多様な指導技術、評価などを、小学校の役割及び中・高等学校の外国語教育との連携を視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

小学校学習指導要領における「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、児童期の学習者の特性と英語授業の在り方を踏まえた知識と技術を以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に付ける。

授業計画

- 1 小学校外国語教育の目標・内容(1)年間指導計画と小中高連携
- 2 小学校外国語教育の目標・内容(2)教材研究と学習指導案作成法
- 3 小学校外国語教育の目標・内容(3)ICTの効果的な活用法
- 4 コミュニケーション能力を育成する指導法 ティームティーチング
- 5 コミュニケーション能力を育成する指導法 発話を促す活動
- 6 小学校英語教材研究(1)音声習得中心の活動
- 7 小学校英語指導法(ワークショップ)(1)音声習得中心の活動
- 8 小学校英語教材研究(2)文字習得中心の活動
- 9 小学校英語指導法(ワークショップ)(2)文字習得中心の活動
- 10 小学校英語教材研究(3)表現形式に焦点を当てた活動
- 11 小学校英語指導法(ワークショップ)(3)表現形式に焦点を当てた活動
- 12 小学校英語教材研究(4)言語使用の場面・背景(物語)に焦点を当てた活動
- 13 小学校英語指導法(ワークショップ)(4)物語の場面・背景に焦点を当てた活動
- 14 小学校英語 模擬授業
- 15 Can-Doによる英語能力の測定とパフォーマンス評価、模擬授業の振り返り

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、プレゼンテーション50%、レポート20%

欠席について

3分の2以上の出席が必要。

テキスト

『小学校英語はじめる教科書 改訂版』吉田研作（監修）小川隆夫、東仁美（著） mpi松香フォニックス
適宜プリントを配布する。

参考図書

『小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年
『Let's Try! 1』『Let's Try! 2』文部科学省
その他、必要に応じて、随時紹介する。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュ II	ET		13729	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
天野 史子	選択	2	児童英語講師、児童英語・小学校英語指導者養成指導、小学校英語活動支援員			

授業の到達目標

キッズ・イングリッシュ I で体験した指導法を活用し、年齢・発達過程にあった指導案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小・中学校、高校、英会話学校等での指導に役立つ授業創りを考え、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

春学期で体験した指導法とその意義を理解し、児童期の学習者の特性と英語授業のあり方を踏まえた音声、文字、語彙・表現、文法指導についての知識と技術を活用し、指導案作成、教材教具作成、模擬授業を行う。その上で、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

- 1 児童の発達段階にあった英語活動を創る(1)「指導案作成のポイント」
- 2 児童の発達段階にあった英語活動を創る(2)「絵カード・教具・ワークシート作成法」
- 3 児童の発達段階にあった英語活動を創る(3)「指導案草案発表」
- 4 実習授業指導案作成(1)『教材研究』
- 5 実習授業指導案作成(2)『教具作成』
- 6 実習授業指導案作成(3)『評価の観点と振り返りカード作成』
- 7 実習授業指導案発表と模擬授業
- 8 第1回 小学校英語活動 実習授業
- 9 実習リフレクション
- 10 実習授業指導案作成(4)『教材研究・指導案発表』
- 11 実習授業指導案作成(5)『教具作成』
- 12 実習授業指導案作成(6)『評価の観点と振り返りカード作成』
- 13 実習授業指導案発表と模擬授業
- 14 第2回 小学校英語活動 実習体験
- 15 まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成
- 16

授業の方法

指導案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の指導・支援を実際に現場で体験する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、レポート30%

欠席について

参加・発表型授業であり、小学校英語活動実習を行うので必ず出席すること

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、教材配布

参考図書

『小学校英語教育の進め方』岡秀夫、金森強 成美堂
『小学校英語の教育法 理論と実践』アレン玉井光江 大修館書店
『小学校英語 はじめる教科書』小川隆夫・東仁美 mpi

留意事項

子どもに英語を教える授業を、自らが積極的に創る。
実習に出かけるときは、指導者としてふさわしい服装・態度で臨むこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもと環境			17454	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解し、幼児期の思考・科学的概念の発達や幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりや発達について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）I（知性）の育成を目指す。

授業の概要

領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身に付ける。特に領域「環境」の指導の基盤となる、現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児の身近な環境との関わりや発達等について学ぶ。

授業計画

- 1 保育と環境
- 2 領域「環境」のとらえ方と考え方
- 3 保育環境の構成
- 4 人的環境(友だちや保育者とともに育つ)
- 5 物的環境(豊かな生活を育む環境をデザインする)
- 6 自然環境(生き物や植物、自然の事象に関心をもつ)
- 7 社会的環境(自分と取り巻く社会の文化にふれる)・子どもを守る安全な環境
- 8 まとめ

授業の方法

保育実践の事例等を取り入れ、具体的にわかりやすい講義を行う。グループ討議等を行い、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

準備学修

Webで参照とすること。

課題・評価方法、その他

平常点50% 定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

新時代の保育双書 保育内容環境 第3版 みらい
幼稚園教育要領解説

参考図書

授業内で紹介する

留意事項

毎回の出席と主体的な取り組みを心掛けること。
日頃から環境について考えておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等英語科指導法			17467	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コースにて10年以上の指導経験あり。			

授業の到達目標

小学校外国語教育における背景知識や教材、多様な指導技術、評価などを、小学校の役割及び中・高等学校の外国語教育との連携を視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

小学校学習指導要領における「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、児童期の学習者の特性と英語授業の在り方を踏まえた知識と技術を以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に付ける。

授業計画

- 1 小学校外国語教育の目標・内容(1)年間指導計画と小中高連携
- 2 小学校外国語教育の目標・内容(2)教材研究と学習指導案作成法
- 3 小学校外国語教育の目標・内容(3)ICTの効果的な活用法
- 4 コミュニケーション能力を育成する指導法 ティームティーチング
- 5 コミュニケーション能力を育成する指導法 発話を促す活動
- 6 小学校英語教材研究(1)音声習得中心の活動
- 7 小学校英語指導法(ワークショップ)(1)音声習得中心の活動
- 8 小学校英語教材研究(2)文字習得中心の活動
- 9 小学校英語指導法(ワークショップ)(2)文字習得中心の活動
- 10 小学校英語教材研究(3)表現形式に焦点を当てた活動
- 11 小学校英語指導法(ワークショップ)(3)表現形式に焦点を当てた活動
- 12 小学校英語教材研究(4)言語使用の場面・背景(物語)に焦点を当てた活動
- 13 小学校英語指導法(ワークショップ)(4)物語の場面・背景に焦点を当てた活動
- 14 小学校英語 模擬授業
- 15 Can・Doによる英語能力の測定とパフォーマンス評価、模擬授業の振り返り

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照とすること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、プレゼンテーション50%、レポート20%

欠席について

3分の2以上の出席が必要。

テキスト

テキスト 『小学校英語はじめる教科書 改訂版』吉田研作（監修）小川隆夫、東仁美（著） mpi松香フォニックス
適宜プリントを配布する。

参考図書

『小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年
『Let's Try! 1』『Let's Try! 2』文部科学省
その他、必要に応じて、随時紹介する。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	ET	13856	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人	選択	1	市教委人権同和指導主事県特別活動研究部長坂神淡路震災避難所支援市公開異人館副館長		

授業の到達目標

子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の方法、子ども理解、教育評価等について学修し、授業の設計技術を修得する。さらに、多様な教材の活用を通じて授業展開の方法を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

学校教育の理念に基づいた教育を実践するための方法や知識を身に付け、基礎的な学習理論と指導技術を学ぶ。

授業計画

- 1 教育方法学の歴史
- 2 カリキュラム論
- 3 教科書と学校教育の関係
- 4 授業の構造について
- 5 教育技術論
- 6 授業の方法と実践
- 7 学力と教育評価について
- 8 模擬授業実践(人権教育)、まとめ

授業の方法

最初に、まとめてレジメを配布し授業を進め、レポート作成やロールプレイに取り組む。

準備学修

Webで参照（中学校学習指導要領等）しておくこと

課題・評価方法、その他

課題：各回の講義中に課題を出すのでレポートを提出すること
評価方法：平常点70%、試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること

テキスト

なし

参考図書

中学校学習指導要領解説（総則編）ぎょうせい出版

留意事項

最初に配布した資料をもとに授業を進める。毎回レポートも作成する

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育におけるICT活用		13859	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
渡辺 卓也	選択	1			

授業の到達目標

教育におけるICTの活用について現状を知り、理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

初等中等教育におけるICT活用のねらいを理解し、その方法について具体例を通して知る。

授業計画

- 1 学習指導におけるICT活用の考え方
- 2 ICTを活用した学習指導について
- 3 ICT機器について
- 4 興味関心を高めるICT活用の具体的な方法や場面
- 5 一人一人の能力を引き出すICT活用の具体的な方法や場面
- 6 思考や理解を深めるICT活用の具体的な方法や場面
- 7 学習準備と評価に関するICTの活用
- 8 まとめ プログラミング教育

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①講義の中で、キーワード等をもとに振り返りを行う
- ②評価については、平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準ずる。

テキスト

必要に応じて資料提供する

参考図書

必要に応じて紹介する

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	教職幼小	17658	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人	選択	1	市教委人権同和教育室指導主事阪神淡路大震災避難所支援市公團異人館副館長県特別活動研究部長		

授業の到達目標

子どもたちに求められる資質・能力を育成するための方法、子ども理解、教育評価等について学修し、授業の設計技術を習得する。さらに、多様な人材の活用を通じて授業展開の方法を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、とI（知性）を養う。

授業の概要

教育計画の理念に基づいた教育を実践するための方法や知識を身に着け、基本的な学習理論と指導技術を学ぶ。

授業計画

- 1 教育方法学の歴史
- 2 カリキュラム論
- 3 教科書と学校教育の関係
- 4 授業の構造について
- 5 教育技術論
- 6 授業の方法と実践
- 7 学力と教育評価について
- 8 模擬授業実践(人権教育)、まとめ

授業の方法

最初に、まとめてレジメを配布し授業を進める。レポート作成やロールプレイングに取り組む。

準備学修

WEBで参照（小学校学習指導要領）しておくこと

課題・評価方法、その他

課題：各回の授業中に課題を出すので、レポートを提出すること
評価方法：平常点70%、試験30%

欠席について

やむを得ない事情があるときは事前事後に届け出ること

テキスト

なし

参考図書

小学校学習指導要領解説（総則編）ぎょうせい出版

留意事項

最初に配布した資料をもとに授業を進める。毎回レポートを作成する

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育におけるICT活用		17659	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
渡辺 卓也	選択	1			

授業の到達目標

教育におけるICTの活用について現状を知り、理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

初等中等教育におけるICT活用のねらいを理解し、その方法について具体例を通して知る。

授業計画

- 1 学習指導におけるICT活用の考え方
- 2 ICTを活用した学習指導について
- 3 ICT機器について
- 4 興味関心を高めるICT活用の具体的な方法や場面
- 5 一人一人の能力を引き出すICT活用の具体的な方法や場面
- 6 思考や理解を深めるICT活用の具体的な方法や場面
- 7 学習準備と評価に関するICTの活用
- 8 まとめ プログラミング教育

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①講義の中で、キーワード等をもとに振り返りを行う。
- ②評価については、平常点50%、定期試験50%。

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

必要に応じて資料提供する

参考図書

必要に応じて紹介する

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論 (中高)			13853	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	阪神淡路大震災学校避難所支援市教委和教育局指導主事公開異人館副館長文科省海外派遣教員			

授業の到達目標

社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応する教育施策の動向を理解する。また、公教育が果たしている社会制度的な意義について考察し、学校教育の基本的な知識を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

公教育の意義、原理、構造について法的な仕組みや基礎的な知識を学ぶ。さらに、こども園・学校と地域との連携の取り組みの中から全ての学校種の在り方や危機管理について考察する。

授業計画

- 1 はじめに、公教育について
- 2 教育行政と公教育の仕組み
- 3 教育改革の歴史概要
- 4 教職教養のまとめ、教育時事
- 5 現代の学校で学ぶもの
- 6 学校経営と教師力
- 7 学校と地域の連携と協働Ⅰ
- 8 学校と地域の連携と協働Ⅱ
- 9 学校力と課外活動(部活動)
- 10 安全教育、安全管理についての取り組み
- 11 学級経営における効果的な指導法
- 12 学校が災害時に果たす組織的な役割
- 13 学校における危機管理のあり方
- 14 開かれた学校づくり、人権感覚の醸成法
- 15 教育経営の基本(保護者対応と姿勢)・まとめ

授業の方法

最初に配布したレジメを中心に授業を進める。レポートを書くこと、グループディスカッション等を多く取り入れる。

準備学修

Webで世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に

調べる。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること。

テキスト

なし

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度、レポートを重視する。授業中に配布したレジメ等の資料を整理しファイリングしておくこと

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職中等		13852	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバークの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

『教育相談ワークブック』桜井美加・齋藤ユリ・森平直子 著 北樹出版

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスクなどでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論	教職幼小PC		17713	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	阪神淡路大震災学校避難所支援市教委向和教育室指導主事公開異人館副館長文部省海外派遣教員			

授業の到達目標

社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応する教育施策の動向を理解する。また、公教育が果たしている社会制度的な意義について考察し、学校教育の基本的な知識を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

公教育の意義、原理、構造について法的な仕組みや基本的な知識を学ぶ。さらに、こども園や学校と地域の連携の取り組みの中から全ての学校種の在り方や危機管理について考察する。

授業計画

- 1 はじめに、公教育について
- 2 教育行政と公教育の仕組み
- 3 教育改革の歴史の概要
- 4 教職教養のまとめ、教育時事
- 5 現代の学校で学ぶもの。
- 6 学校経営と教師力
- 7 学校と地域との連携と協働Ⅰ
- 8 学校と地域との連携と協働Ⅱ
- 9 学校力と課外活動(部活動)
- 10 安全教育、安全管理についての取り組み
- 11 学級経営における効果的な指導法
- 12 学校が災害時に果たす組織的な役割
- 13 学校における危機管理のあり方
- 14 開かれた学校づくり、人権感覚の醸成法
- 15 教育経営の基本(保護者対応と姿勢)・まとめ

授業の方法

最初に配布したレジメを中心に授業を進める。レポートを書き、グループディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

WEBで世界各国の教育制度や教育の現状、教育方法について事前に調べておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%。

欠席について

やむえず欠席する場合は、事前事後に届け出ること。

テキスト

なし。

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度、レポートを重視する。授業中に配布したレジメや資料等を整理しファイリングしておくこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・健康			17717	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
竹安 知枝	選択	2				

授業の到達目標

・保育内容の領域「健康」について、他の領域とも関連させながら、説明ができる。・保育者として必要とされる知識や技能（乳幼児が生活習慣を獲得していくための、子どもとの関り方や援助の方法など）を身に付ける。・小学校の教科等とのつながりも意識した保育が実践できるように、それらのための資質と能力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）I（知性）を養うことを目指す。

授業の概要

乳幼児期の発達（認識・思考や運動発達・生理的発達等）について学習し、この時期の基本的な生活習慣の獲得（食事・睡眠・運動）について、ディスカッションを行い、具体的に考えていく。また、子どもを取り巻く、現在における問題点について焦点をあて、その改善策について多面的に考えながら、保育者としての役割について様々な観点から考察し、発表を行う。そして、指導案の作成や模擬保育を通して、様々な指導場面を想定した保育実践ができるよう、授業を展開していく。

授業計画

- 1 保育内容の領域について
- 2 領域「健康」の全体構造
- 3 乳幼児期の発達 0～3歳児
- 4 幼児期の発達 4～6歳児
- 5 乳幼児期の食事(栄養)と睡眠
- 6 乳幼児期の運動(遊び) 0～3歳児
- 7 幼児期の運動(遊び) 4～6歳児
- 8 日常生活物を使用した遊びと自然遊び
- 9 基本的な生活習慣の獲得(食事・睡眠・運動)・教材の研究(重要な視点)と情報機器の操作方法
- 10 ケガ・病気の予防と感染症
- 11 指導案の作成(1)(書き方の基本)
- 12 指導案の作成(2)(テーマごとの作成)
- 13 模擬保育(1)(実践・振り返り)
- 14 模擬保育(2)(振り返り・改善における視点)
- 15 安全対策・小学校教科とのつながり・まとめ

授業の方法

講義を中心とする。テーマによっては、ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題や発表に対するフィードバック
グループ発表や提出物に関して、全体へのフィードバックを行う。
- ②評価方法
提出物（レポート）50% 発表 20% 学習意欲・授業態度 30%

欠席について

大学の規定に従う。（欠席回数が規定を超える場合は、評価の対象外となる）

テキスト

幼稚園教育要領（平成29年3月）文部科学省

参考図書

授業内で紹介する。

オフィスアワー

授業前後の時間帯に、講師控え室（もしくは教室）で対応します。